

文化の風が吹くまち ちくしの

文化薫道

◆其の六十四 交差点に残る地名

国道3号を久留米方面へ進み原田を抜け、佐賀県との県境まで進むと「三国境」という交差点があります。

江戸時代に書かれた筑前国続風土記でも「原田宿の西に肥前・筑後・筑前の境で、大路の東小山の上にあつて三国境ということあり、当時からこの辺りは、筑前国、筑後国、肥前国の境目として三国境と呼ばれていたやうです。

この三国境交差点の東側にある小高い山には、「三国境石」と呼ばれる国境石が建てられています。

三国境石は、もともと筑前国、筑後国、肥前国が接する所に境を示す塚があったようです。しかし、壊れかけていたため、文化2(1805)年に円柱の形をした石に作り替えたという記録が残っています。境を巡る争いを防ぐためにもしっかりとした目印が必要だったのでしょう。



現在の三国境石

明治時代になり廃藩置県が行われ、国はなくなりましたが、現在も筑紫野市、小郡市、佐賀県基山町との境を示すものとして、息づいています。

問い合わせ先／文化財課

